

保健専門領域

野津有司（筑波大学体育系）

1. あらまし

保健専門領域では 1975 年に設置されて以来、年次大会において保健にかかわる多様な分野の研究が発表されてきた。例えば、継続的に開催されてきたシンポジウムのテーマをみても、学校保健、保健教育、健康管理、地域保健、運動と健康・衛生等がある。

そうした中で、日本体育学会の保健専門領域として担うべき重要な課題の一つに、保健科教育研究が挙げられる。学校教育では児童生徒に、生涯を通して健康課題に適切に対応できる資質や能力を育成することが求められており、保健科教育（小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科科目保健）はその中心的な役割を担っている。ここでは、保健科教育研究に焦点を当てて、最近の成果等について述べる。

2. 内外の研究動向

日本体育学会年次大会における過去 5 年間（2009～2013 年）の保健科教育に関する一般発表をみると、まず教員養成に関するものが目立つ。例えば、「教員志望学生の小学校体育科保健領域の授業自己効力感」（植田誠治氏）、「学生による『出前授業』体験が授業力向上に及ぼす影響について—『タバコ出前授業』と模擬授業及び教育実習との関連—」（岡崎勝博氏ら）、「教員養成段階における保健科教育法に関する探索的研究」（物部博文氏ら）等が発表された。また、保健の学力に関して、「保健体育の教員免許の取得をめざす大学生における高校の保健内容の習得状況について」（その 1：加藤俊宏氏ら、その 2：岩田英樹氏ら、その 3：片岡千恵氏ら）や「フィンランドが育てようとしている保健の学力—『保健科目』が大学入学資格試験にある国—」（小浜明）等が発表された。さらに、保健の授業実践を対象としたものもみられ、例えば「中学校保健学習『医薬品の正しい使用』におけるパフォーマンス課題・評価を用いた授業の有効性」（與儀幸朝氏ら）等が発表された。

日本学校保健学会の学術雑誌「学校保健研究」においては、保健科教育に関する貴重な論文がしばしば掲載されている。その中で、最近の研究論文として「全国調査による保健学習の実態と課題—児童生徒の学習状況と保護者の期待について—」¹⁾が注目される。本論文では、日本学校保健会保健学習推進委員会が 2004 年に、全国の児童生徒 1 万 8 千人余りとその教師および保護者を対象とした全国調査の結果から、保健科教育の一定の成果が報告されるとともに、さらなる改善、充実が求められることが指摘された。さらに、2010 年には第 2 回となる同様の全国調査が実施され、保健科教育の実施状況や児童生徒におけ

る保健の学習意欲，教師における保健の指導意欲等が良好に変化していることなどが報告された²⁾。この知見は，ヘルスプロモーション・健康教育国際連合（IUHPE）の第21回世界会議（2013）において発表され，日本の保健科教育の実績について国際的にも注目を集めた。

今後の保健科教育学の課題としては，他教科における研究動向のレビューも踏まえてみると，教科論およびカリキュラム研究，授業研究，教師教育研究等のさらなる研究成果の蓄積が重要と思われる³⁾。

3. 科学的知見の応用の状況

2013年に，これまでの保健科教育に関する研究成果を踏まえながら，保健学習の実践・充実に向けた報告書が，特に実施状況の改善が求められる中学校に焦点を当ててまとめられた。

この報告書では，「学校現場・保健体育科教師」，「教育委員会・指導主事」，「教員研修センター等の研修機関」，「教員養成の大学等」および「関連学会・研究会」に向けて，7つの提案とその実現のための21の手立てが示されている。その提案とは，1. 保健体育科教師は，その責務を十分に自覚し，保健学習を計画的に，確実に実践すること，2. 学校は，保健授業を改善するために，組織的に取り組むこと，3. 保健体育科教師の保健学習に対する理解を深め，指導意欲を高めるような取組を進めること，4. 保健学習に焦点を当てた研修プログラムを充実し，参加を促進すること，5. 保健学習の指導力を持つ保健体育科教師を養成すること，6. 保健学習に関する研究を活性化すること，7. 保健学習の実践の交流を活性化すること，である。具体的な手立てについては，（公財）日本学校保健会のポータルサイト http://gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H250010/index.html#1 に公開されているので，参照されたい。

5. 若手研究者へのメッセージ

保健専門領域では現在，保健科教育の実践および研究の活性化に向けた議論の場となる研究会を構想している。若い研究者は特に積極的に参加し，自ら発表して，研究を推進していく力となって欲しい。本専門領域が我が国の保健科教育研究の中核となって，その成果を国内外に発信していきたいと願っている。

6. 主な引用文献

- 1) 野津有司ほか：全国調査による保健学習の実態と課題 - 児童生徒の学習状況と保護者の期待について - 学校保健研究 49 : 280-295, 2007
- 2) 財団法人日本学校保健会：平成22年度保健学習推進委員会報告書－第2回全国調査の結果－。2012
- 3) 岩田英樹ほか：教科教育学研究の動向と保健科教育学の課題。日本体育学会大会第57回大会（弘前市），2006

（2014年6月29日執筆）